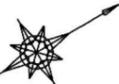


造成協力地がある場合は、
区域を表示すること。



公図に合わせて、法定外道路「里道」(赤)・
法定外水路(青)「水路」を着色すること。

区域内外の現況高を示すこと。

隣接地は、地番、
所有者を表示すること。

開発区域及び関連区域内は、地番、地目、
所有者を表示すること。

官民境界確定日を表示すること。
「事前」で確定していない場合は、現状
の状況（現在確定に向けた立会中、今後
立会予定など）を表示すること。

一筆の一部区域である
場合はメガネ表示すること。

凡例を作成すること。

各図面共通事項

- 方位、縮尺を表示すること。
- 区域界を明確に（実線で太く）表示すること。（開発区域（赤線）、関連区域（緑線）、造成協力地（任意色線））
- 図面名、図番、作成日、作成者等を記入すること。
- 各種平面図において、現況道路名、有効道路幅員、河川名、区域内外の現況地盤高等を表示すること。
- 現況平面図以外の各種平面図について、周辺住宅の所有者名等の個人情報は表示しないこと。
- 琵琶湖付近の場合は、宅地の高さをTP+85.871m（TP+84.371+1.5m）以上で計画すること。
- できるだけTP表示で作図すること。

排出先構造物、取水・排水位置を
図化すること。

流向も表示すること。

凡 例	
	開発区域線
	開発区域線
	境界線
	造成協力地
	法定外道路
	普通河川等
	区域外 土地表示
	区域外 土地表示
	区域外 土地表示

事業名	〇〇〇事業
事業場所	大津市〇〇〇丁目
事業者	〇〇株式会社
設計者	〇〇株式会社 大津 太郎
製図年月日	令和〇年〇月〇日 版次 1/300
図面名	現況平面図 図番 1